

新津地区公民館運営審議会 会議概要

1 開催概要

- (1) 名称 第9期第3回新津地区公民館運営審議会
- (2) 日時 令和6年8月22日(木) 午後3時30分から午後5時
- (3) 会場 新津地区公民館502研修室
- (4) 出席者
 - ・委員 渡辺委員(議長)、皆川委員(副議長)、阿部委員、小原委員
金子委員、上村委員、川瀬委員、篠原委員、相馬委員、松嶋委員
 - ・事務局 【新津地区公民館】森山館長、今野主任、権平主査、潮田主査
【小須戸地区公民館】吉田館長、桑原主査
- (5) 傍聴者 0人

2 議事・報告事項

- (1) 令和5年度事業報告について
 - ①新津地区公民館
 - ②小須戸地区公民館
- (2) 令和6年度事業計画について
 - ①新津地区公民館
 - ②小須戸地区公民館

3 概要(意見・質問事項)

(1) 令和5年度事業報告について

- ・「中学生の人権教室」は中学校全体への波及効果はあまり望めないようだが、どう分析しているのか。
→(新津)新潟市全体で8区を2分割し1年に4区ずつ開催しているため、秋葉区で2年に一度開催できるというもの。このため全体への波及効果が難しくなっている。
- ・小須戸体育館がアスベストで使用禁止になっているが、いつ頃再開するのか。
→(小須戸)年度内いっぱいかかりそうだと地域総務課から聞いている。
- ・学校を通してたくさんの活動をしているが、講師への謝礼は公民館の負担という解釈でよろしいか。
→(新津)公民館予算と国補助による地域と学校パートナーシップ事業の予算があり、年間の予算枠の範囲内で対応しているため全てに応じられる訳ではないが、翌年度の事業を検討する段階で各校の皆さんと協議をさせていただきたいと思う。
- ・「レザークラフト体験会」の材料費などは高そうだが、参加者負担なのか。その場合の料金は相場的に安くなっているのか。
→(小須戸)材料費は参加者の自己負担であり、公民館で補助はしていない。輸入の皮を使うなど、低廉な価格で制作できるよう工夫している。また小須戸では、公民館

予算の他に企業のCSR（社会貢献）活動として、「スマートフォン講座」や「プログラミング教室」など、無償で協力してもらっている事業もある。

→（新津）スマホ講座については同様に、企業の協力で報酬なしで来てもらっている。

・事業内容や開催時期によってはなかなか思うような人数が集まらないこともあると思うが、その中で色々な努力も感じている。例えば、小須戸の「苔テラリウム」や「カーリンコン大会」は非常に参加人数が多い。逆に「スリッパ卓球大会」や「みどりの植物を楽しもう」が事業廃止になるのは残念な気もする。

・新津の地域交流事業は5つの学校が対象になっているが、輪番で学校が替わるということか。

→（新津）輪番ではなく、地域教育コーディネーターと話を進める中で、希望を聞きながら内容を精査している。

・新規事業の「数字パズルを解く」で、数独友の会亀田というのは、亀田地区も何か関係があるのか。

→（新津）先に亀田地区公民館で講座が行われサークルに発展したため、横への展開になり、当館でもサークル化が無事達成できた。

・新津の「あきは未来フォーラム」の館長評価のところで、参加者数が低迷し運営方法と併せ募集方法を見直す必要があるとのことだが、現在の見直し案はあるか。

→（新津）中学校にチラシを配るなど広報しているが、実際はなかなか集まらない。元々この事業は旧市民会館2階の会議室を会場に100人規模で開催していたもので、文化会館の500人規模を埋めるのはなかなか大変である。チラシ配布先やホームページの工夫、facebook等を駆使して努めてみたい。

・「苔テラリウム」は大変好評で、今後受講生から市民展に作品を出品してもらおうという将来性にも繋がり、見に来る人も楽しめるといふ、とても良い結果になったと思う。

→（小須戸）これからも継続して活動して行けるよう、先生がまちづくりセンターの利用団体登録をしてくれたこともあり、これから「苔テラリウム」制作が小須戸地区で活発になっていくと思う。

（2）令和6年度事業計画について

・新津第三小学校の「折り紙教室」に地域住民として参加させてもらったが、保護者や地域の方が参加し学びの拠点となっていて素晴らしかった。結小学校も昨年度、子どもたちに何か楽しいことができないかと思い「スティックドミノ」を計画したが、結小学校は児童数が多く、会場や地域のボランティアの確保が大変だった。新津第三小学校は大人が対象だが、結は子どもの参加をメインにしたいので、公民館からさらにバックアップしてもらいたい。まず導入編として、地域の大人対象の「折り紙教室」など何か楽しいイベントができたらいいと考えている。

→（新津）地域と学校パートナーシップ事業は、学校支援活動、地域貢献活動、地域交流活動などがあるが、新津第三小学校の「折り紙教室」は学びの拠点づくりという事業である。学びの拠点とは、ミニ公民館、小さい公民館というイメージで、地域の皆さんに身近な存在である学校に新潟市の公民館が出かけている。今後も、地域教育コーディネーターなど学校関係者と話し合い、総合的に検討していきたい。

・「ニュースポーツ入門」のスリッパ卓球クラブについて、昨年度の評価の中で実行委員会の残金で卓球クラブの用品を購入したとあったが、実行委員会と卓球クラブ、公民館の予算の関係や用品の管理について説明してほしい。

→（小須戸）にいがたスリッパ卓球大会は、平成の早い頃に小須戸地区で、地域の交流人口の拡大のためにまちおこしで始めたのが発端である。年々大会の参加者が増え公民館だけの主催では開催が難しくなったため、地域のコミ協や小須戸スリッパ卓球クラブ、スポーツ推進委員による実行委員会を構成して、令和2年3月に大会を行う予定だった。しかし、同年2月下旬に本県でも新型コロナウイルスの感染が始まったことで大会は急遽中止になり、その後も実行委員の協力体制が難しくなったため、以前のような大会を開催できなくなった。そのため実行委員会の総意で、スリッパ卓球の火を小須戸の文化として消さないで続けていけるよう、残金はネット修繕やボール購入用にスリッパ卓球クラブに引き継ぎ、会を清算した。用品の維持管理もクラブが行っている。

・事業の内容についてはではないが、今後、体育館など学校の施設を大いに活用してもらえたらと思う。イベントや事業で活用する中で、子どもたちも一緒に当事者として参加することができ、それを支える企画の運営やボランティアとしての関わりなども、とてもいい姿だと思う。中学校の部活動が地域に移行される背景にあるのは、特定の活動だけということではなく、地域の中で様々な学びの場、活動の場もあっていいと思っている。中学生が参加できるような、取り組めるような、単発ではなくて、ある程度の定期的な回数の事業があって参加できるとありがたい。中学生がその事業に当事者として参加するだけでなく、それを支えるボランティアとしての経験もできるような活動があってもいいと思うので、今後一緒に相談させてほしい。

・家庭における教育力向上支援、青少年の生き抜く力を育む機会の充実という基本施策に関連して、共働きで放課後児童クラブを利用するケースも多くなっているなど、今の家庭環境が変わってきていると思う。そのため、事業に取り組むにあたって十分に配慮、工夫をしてもらいたい。お盆に檀家を回っても、子どもにほとんど会わなかった。どちらかに預けて見守られているとは思いますが、社会的変化が著しいと感じている。7月、8月の夏休み期間の事業では、工夫して学びを提供し、うまく教育に導いてほしい。

・高齢者に対しては、SNSやホームページでの発信に頼るのではなく、アナログかもしれないが、人と人との交流の中で人が人を呼んで参加してくれると思うので、チラシを持って行き呼びかけてくるなど、高齢者に参加してもらおう工夫をお願いする。